

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 1 号 乙 保	氏 名	片岡 三佳
審査委員	主 査 葉久 真理 副 査 田村 綾子 副 査 森 健治		

題 目

Clarifying the Strengths-Oriented Attitude among Nurses in Psychiatric Hospitals in Japan

(日本の精神科病院に勤務する看護師のストレングス志向の実態)

著 者

Mika Kataoka, Kazuhiro Ozawa, Tetsuya Tanioka, Rozzano Locsin : 2015 年 6 月 29 日 Health, 7 (6), 776-787 (2015) (doi: 10.4236/health.2015.76092) オンライン版に掲載済

要 旨

本研究は、精神科看護師のストレングス志向、すなわち精神科看護師が、対象理解の視点として患者自身のストレングス（強みや長所、希望など）を理解し、それを看護実践に反映させようとする意識や態度を調査し、それに関係する看護師の個人属性を分析したものである。

方法は、既存の文献を参考に独自に作成した精神科看護師のストレングスの志向(SOAI)に関する調査票（原案 25 項目、4 段階リカート尺度）を用いて、17 精神科病院 1057 名の内、有効回答 984 名のデータを統計分析した。SOAI は、探索的因子分析により 4 因子が抽出され(22 項目)、信頼性を示す Cronbach's α 係数は、[社会面を重視したアセスメントに基づく実践] $\alpha = .87$, [全人的なアセスメントに基づく実践] $\alpha = .88$, [地域をベースに展開されるその人らしい生活への支援] $\alpha = .83$, [個人のもっている力の重視] $\alpha = .79$ で、尺度全体では $\alpha = .90$ であった。SOAI 得点に関連していた看護師の個人属性の特徴として、①准看護師は、看護師や准看護師免許を有する看護師に比して SOAI 得点が低く、4 因子中 3 因子で有意に低い値であった。これは、准看護師の教育内容や到達目標、看護師との役割の違いから生じるものであるが、精神科領域では、准看護師のスタッフが多いため、准看護師が患者をストレングスの視点で見るための卒後教育の必要性を示唆した。②訪問看護・心理教育・退院促進支援などの体験が、看護師のストレングス志向に影響していたことから、これらの経験を現任教育に組み込むことの必要性を示唆した。

精神疾患が「日本の 5 大疾患」の一つに位置づけられ、これまでの精神科特例としての人員配置の見直しや脱施設化を目指したりカバーケアを基軸としたパラダイムシフトが期待される。その中で、本調査は、ストレングスの概念を精神科患者への支援に適用していくための看護職者の意識・態度の変革に向けて、その実態を把握し、具体的な方策が検討できたという点で評価できる。

論文審査の結果、本研究は、精神科看護師のストレングス志向を測定し、看護の質を担保するための方策を検討することができ、ひいては精神科患者のより良き脱施設化に貢献するものであり、博士の学位授与に値するものと判定した。